

## 【部会・分科会活動報告】 2019年1,2月度

食品 安全 研究 会	食品微生物研究部会	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会 高温性の偏性嫌気性芽胞形成菌の分析方法を確立し、普及活動を行なっている。具体的には乳業、製糖、清涼飲料の各業界団体を訪問した。乳業技術協会には技術誌への掲載を依頼している。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 2/15 NITE にて情報交換会を実施した。NITE の客員研究員である名城大の田村先生にも参加していただいた。</p> <p>① NITE との共同研究契約を2019年4月から2年間延長するための契約書類作成中。</p> <p>② 今後の活動方針は以下の3点。 ・カビの分析方法についてノウハウも含めて手順化し、公開する。 ・自家ライブラリの作成方法について、島津社と共同で実習を含めた研修会を企画する。 ・株レベルでのタイピングの可能性を探る。</p> <p>③ 分科会リーダーの異動により、後任の取りまとめ役を選定中。</p> <p>(3) チルド勉強会 2/21 関係者で打ち合わせを実施した。</p> <p>① 芽胞の耐熱性試験方法の標準化検討 セレウス菌の基準株を用いて8社で耐熱性の測定を行なっている。</p> <p>② 低温増殖性ボツリヌス菌に関する調査の検討 12月に日本缶詰びん詰レトルト食品協会の久保先生を訪問し、接種試験等について相談した。今後、活動内容を検討する。取りまとめ役は勉強会リーダーとは別の方をお願いした。</p> <p>(4) NGS プロジェクト Food Microbiology 誌に投稿された総説が無料で公開されている。 3/6 公開シンポジウムの開催に向け、準備中。</p> <p>2. 2019年度 第1回部会全体会議を3/6 NGS 公開シンポジウムの会場である大田区民ホールアブリコで予定している。</p>
---------------------	-----------	--

	食品リスク研究部会	<p>1. 部会活動：次期役員交代の準備作業を行った。</p> <p>2. ILSI Japan 動物実験代替法プロジェクト (AAT-Prj)  ☆参加企業は2社増えて16社。</p> <p>1) 第1回定期会議開催 (3/4)。進捗を確認、議論した (21名参加)。第2、3、4回をそれぞれ本年6/7、9/4、12/6に予定。</p> <p>2) 2020年国際ワークショップ (ILSI Europe コラボ)  ・プログラム委員：ILSI Europe (アカデミア1名/インダストリー2名) 及び ILSI Japan (アカデミア2名/インダストリー2名) の合計7名就任。  ・日程/地域：2020年10月22日(木) - 23日(金)に京浜地区開催。  ・内容：動物実験が求められる世界の動向。動物実験代替法活用の現状と必要な研究の示唆。動物を用いない研究の必要性へのアピール。  ・プログラム概要が決まった段階で、アジア各支部 (特にインド、中国)、その後他支部へ紹介、参加募集予定。  ☆上記内容にて ILSI Europe と合意。</p> <p>3) ワーキンググループ (WG) 活動  ・腸管吸収 WG：ヒトの腸管吸収性の予測技術の確立を目指す。取り組みについて専門家 (昭和薬科大 山崎教授、東農大 清水教授) と議論。  ・データベース WG：反復投与毒性試験及び生殖発生毒性試験の代替法として活用可能なデータベースの構築を目指すことで合意。取り組み方法について専門家ヒヤリング予定 (東大 庄野先生)。</p>
	香料研究部会	
	バイオテクノロジー研究会	<p>1. 2019年度 第1回目会議を1月24日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書 第42号が1月21日に発刊、ERA プロジェクト調査報告 第43号の勉強会：  ・10報の論文をレビューし、意見交換を行った。</p> <p>(2) GM 微生物食品について：  ・3/18「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップ開催。準備状況について共有化。</p> <p>(3) GM 作物について：  ・ERA 調査報告書特別号「日本における GM 作物の ERA の発展」  林先生による報告会は来春4/26に予定。  ・2019 IS Biosafety Research (旧称：ISBGMO) 準備状況報告。</p> <p>(4) FY2019 活動助成金通過見込みについて  ・2件の助成金が請求額通り通過する予定であることが報告された。</p> <p>(5) そのほか  ・橋本名誉部会長が TC34/SC16 国内対策委員会 GMO 分科会の委員となることが決定された。</p>
栄養健康	栄養研究部会	特記事項なし。
	GRプロジェクト	第4回 GR 法多施設試験 (2019年1月~3月を予定) 実施中

研究会	茶類研究部会・茶情報分科会	<p>2/7 茶情報分科会 打合せ 2019年 分科会の方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピロリジンアルカロイドに関する情報共有と今後の取り組みについて → ILSI 茶情報分科会内での今後の情報共有の確認</li> <li>・ISO の チャ カテキン分析法への対応について → 分析用標準品の提供と主要カテキン類の ISO 分析法への組み込みに向けた発信について</li> <li>・紅茶テアフラビン類の物理科学情報の発信</li> </ul>
食品機能性研究会		
寄付講座 「機能性食品ゲノミクス」		
健康な食事研究会	<p>ワーキンググループ 1 (WG1) 科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1/25 第13回勉強会 東大佐々木研で打ち合わせ (11名参加)。次に何をやるかのブレストを行った。日本食の定義が曖昧なため、「健康な日本食」は検証できなかった。 これを踏まえ健康な食事の概念構築のために、今後、次のアクションが考えられる。</li> <li>① 「健康な食事」を日本の食 (文化含む) で定義する方法を検討する → 地中海食や DASH 食の手法を学ぶことから。</li> <li>② 「健康」から「日本食」を定義できるか検証する → 議事メモに記載のあった寿命、死亡率、その他バイオマーカーなどと食事・食品・栄養素の影響を検討する。</li> </ul> <p>* 具体的手法は方向性が決まってから新メンバーで検討する。 * 昨年の報告書に関しては「イルシー」誌 138号掲載を目指し準備を進めていたが、編集担当者の指示により参考文献の扱いの書き直しが必要になり、139号掲載 (5月中旬締め切り) に変更した。 * 大崎サブリーダーの転勤により次のサブリーダーは具体的な方向性が決まってから選ぶ。 * アドバイザー児林先生の東大退職に伴い、健康な食事研究会のアドバイザーも辞退された。</p>
ワーキンググループ 2 (WG2) 外食・中食・給食の実態把握		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/14 日本生活協同組合連合会へのラウンドテーブルを行った。議事録はWG2内で共有済み。</li> <li>・2/14 ミーティングを実施し、進捗報告会の発表内容の確認と、WG2事務局スタッフとアカデミアの先生から、今年度の活動計画が紹介された。</li> <li>・外食産業ヒアリングの候補を挙げ、順次分担して調査する。</li> <li>・惣菜協会を介して紹介いただいた中食企業に対してアンケートをするべく準備を始めている。アンケート内容原案をグループ内でブラッシュアップしている。</li> </ul>
ワーキンググループ 3 (WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1/23 ミーティング (ILSI Japan 会議室) これまでのヒアリングで得られた知見 (9件) を共有 (共通する成功・失敗要因の抽出) し、本年の活動内容について議論。その中では、データマイニング手法での解析結果も紹介された。進捗報告会の発表内容の確認を行い、2019年度の活動計画案に関して、地域や学校をターゲットにした調査も行うことを決定した。</li> <li>・健康経営優良企業のヒアリングは継続して行う (3月1社訪問予定)。</li> </ul>

	研究会全体	<p>1) 2/4 第7回全体会議 (ILSI Japan 会議室)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗報告会発表内容確認</li> <li>・進捗報告会フラッシュレポート (担当者分担済み) (「イルシー」誌 139 号・5 月中旬原稿締め切り)</li> <li>・10 月「栄養とエイジング」国際会議までのスケジュール確認 (「イルシー」誌 140 号・7 月末要旨原稿締め切り、「イルシー」誌 141 号・11 月中旬フラッシュレポート原稿締め切り)</li> </ul> <p>2) 2/21 健康な食事研究会進捗報告会 (日本橋公会堂) を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・113 名の参加登録 (17 名欠席) で 96 名の参加者であった。</li> <li>・メールでアンケートの結果、健康な食事研究会会員以外からの回答も得られ、今後の最終報告が期待されるという声が見られた。</li> <li>・健康な食事研究会各 WG リーダー 3 名からの発表の後、次の 2 講演を行った。</li> </ul> <p>講演 1 : 日本食パターンが心身の健康に及ぼす影響について    東北大学大学院 医学系研究科 公衆衛生学専攻    公衆衛生学分野 教授 辻 一郎</p> <p>講演 2 : 健康寿命延伸への取り組み メタボとフレイル    国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事/    国立健康・栄養研究所 所長 阿部 圭一</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パネルディスカッションでは「健康な食事の要件」と「自然な社会定着の方法」についてディスカッションされた。</li> </ul> <p>① 健康な食事の要件    健康の定義を決め、日本食スケールを、地中海食のように発酵調味料や調理法、食事法なども含めて項目を 10 個ぐらいに絞ることが要件として出された。</p> <p>② 自然な社会定着の方法    以下のような意見が出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育 (ヘルスリテラシーの向上)、経済格差に起因する健康格差の是正 (給食の充実、イギリス減塩規制のような仕組みの必要性など)</li> <li>・経済的弱者の中の健康人の研究や、日本食と非肥満の研究を行うことにより、提言を発信し、研究結果を社会に還元できるのではないか</li> <li>・OECD のレビューにみられる日本の公衆衛生政策の特徴 (健診頼みの傾向が強い/「健康日本 21」はポピュレーション戦略不足/災害弱者対策の強化が必要)</li> </ul>
C H P	Project PAN (Physical Activity and Nutrition)	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ~元気で長生きのための運動・栄養プログラム~</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・墨田区の委託で「栄養・口腔講演会」を開催した。区報で募集 (定員 20 名) 2 会場で実施。</li> </ul> <p>2/13~14 会場すみだ女性センター    2/27~28 八広地域プラザ</p> <p>&lt;1 日目&gt; 口腔ケアに関する講義 高柳篤史先生、栄養に関する講義 ILSI スタッフ    &lt;2 日目&gt; 調理実習 協力)森永乳業 (14 日)、公益社団法人日本缶詰びん詰レトルト食品協会 (28 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他の教室</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1/17 テイクテン教室参加経験者による自主サークル スカイテイクテン定例会 (押上オレンジルーム, 墨田区)</li> <li>・1/30 介護予防「らくらく教室」講習会にて講義 (地域包括支援センター千住本町, 足立区)</li> </ul>
Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト	<p>NJPPP (栄養事業推進プラットフォーム) の委託事業としてインドネシアおよびカンボジアでの職場 (工場) の栄養改善プロジェクトを推進した。両プロジェクトとも 2019 年 3 月で完了。NJPPP 事務局に報告書提出の予定。</p> <p>◇インドネシア</p> <p>健康な工場食導入の対象工場 (日系自動車部品工場) での従業員の健康課題、工場食の問題点を研究委託先のボゴール農科大学と解析した。食事の栄養バランスの問題に起因すると考えられる過体重、高血圧などが多いことが判明した。2 月 11 日より本プロジェクトのパートナーである都給食が健康なメニューの提供を開始。TAKE 10! check sheet を用いた多様な食材摂取の推奨など栄養啓発活動も実施。</p> <p>◇カンボジア</p> <p>2/25～3/2 栄養強化米を用いた介入試験に関し、人間総合科学大学中西先生、Reproductive and Child Health Alliance (RACHA) により end-line study を実施。介入による栄養状態、健康状態の改善についてデータ解析を実施中。</p>
CHP 全体	<p>ILSI Annual Meeting (1/8～13 於 Tampa, USA) の際、CHP の活動のグローバルな展開を ILSI Research Foundation, ILSI SEAR と協働で展開する可能性について協議した。Rice Fortification のテーマについて、具体的可能性を継続検討することで合意した。</p>
国際協力委員会	<p>委員会開催：2019 年 1 月 31 日 (木) 16:00～17:30</p> <p>【議題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ILSI SEAR 取り纏めの “Review of status of nutrition labeling, nutrition and health claims regulations in Asia” を無償提供いただけない場合、参画企業に情報提供する目的で予算建てできるか検討</li> <li>・ILSI の Mandatory Policies の改版に関して事務局より確認要請あり</li> <li>・ILSI NA からの『腸内細菌改善に関する日本でのヘルスクレームについての情報提供依頼』に対して国際協力委員会にて回答ができるか検討</li> <li>・農水プロジェクトで以前作成した各国のレギュレーションの更新に関しては、予算がないため他支部に協力を仰ぐことが難しいということを再確認</li> </ul> <p>2 月活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ILSI NA に対して回答</li> </ul>
情報委員会	<p>栄養学レビュー編集会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・27 巻 2 号、通巻 103 号、発刊 2/22、会員企業送付済み → 宣伝メール準備</li> <li>・27 巻 3 号、通巻 104 号採択論文 4 報 OUP 承認済み、翻訳・監修・初校・初稿戻し終了 → 再校編集中</li> <li>・27 巻 4 号、採択論文 4 報 (2/22)、翻訳者・監修者決定、翻訳</li> </ul>

	中、OUP 承認取得済み → 翻訳締め切り 4 月末、監修締め切り 5 月末、発刊 8 月 10 日」予定
編集部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「イルシー」誌 137 号発行</li> <li>・「イルシー」誌 138 号編集</li> <li>・「イルシー」誌 139～141 号原稿依頼検討、編集</li> </ul>

## 【講演会・シンポジウムご案内】

講演会名	案内	担当研究部会

## 【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>○第 1 回理事会が、2019 年 2 月 6 日（水）に開催された。</p> <p><b>確認事項（平成 31 年通常総会決議事項）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2018 年の事業活動報告及び決算報告書案 事務局が各研究会、研究部会ごとに事業活動報告をし、決算の概要を資料に基づき説明した。</li> <li>2. 2019 年事業活動計画及び収支予算案 事務局が各研究会、研究部会ごとに事業活動計画及び収支予算の概要を資料に基づき説明した。</li> <li>3. 定款変更 第 3 章 役員 第 19 条 従来の定款では「総数の 3 分の 1 以下の役員は報酬を受ける事が出来る」という項目があるが、2018 年 8 月に本部理事会により決議された <b>Mandatory Policy</b> 中の「理事は理事会や委員会の業務を遂行した場合でもその報酬を ILSI から受けてはならない」に則り、役員は無報酬とする修正条項を提案した。 2 号議案について 2019 年の活動計画案と収支予算案は、理事会承認のみにして通常総会では決議しないことが可能との意見が出て、これについて問題がないか所轄庁に確認することとした。 また 3 号議案について NPO 法人の理事に報酬を支払わねばならないとの規定が法律があるので、所轄庁にその旨確認して欲しいとの意見が出た。 以上 2 つの意見について所轄庁に確認したところ、前者は問題ないが透明性の点で通常総会の議案にする方が望ましい、後者は NPO 法人の理事は報酬がない場合が多く、無報酬は問題ないとの回答を得た。結果、原案のまま総会に提出することを理事に確認した。</li> </ol> <p><b>報告</b></p> <p>本部総会報告</p> <p>本部機関には <b>Assembly of Members</b>（本部総会）と <b>Board Of Trustees</b>（本部理事会）があり、前者の構成メンバーがインダストリーに偏っているので、インダストリー 1 名、アカデミア 1 名の計 2 名のメンバーを全 17 支部より選出し、計 34 名で構成すること、また後者は効率よく、フレキシブルな運営が出来るように、構成メンバーを本部費の貢献および地域のバランスを考慮して、北米 2 名、欧州 2 名、<b>Research Foundation</b> 2 名、東南アジア 1 名、ラテンアメリカ 1 名、中国・インド・日本・韓国・台湾のグループから 1 名、その他 1 名の計 10 名の理事に変更することを本部理事会にて決定した。</p> <p>また、“A Brave New World In Nutrition &amp; Food Safety”と題し</p>
-----	--

	<p>て ILSI 2019 Science Symposium が開催され、そのうち「セッション 1 : New Technologies Advancing Accuracy in Food Intake and Physical Activity Assessment」において、東京大学の笹井先生に “Accuracy of wearable devices for estimating total energy expenditure: comparison with metabolic chamber and doubly labeled water method” というテーマで発表していただいた。</p> <p>本部総会の開催期間中に、BMJ（英国の権威ある医学雑誌）誌に、コカコーラ社が中国政府の肥満対策の政策決定にイルシー中国を通して影響を与えている、という論文が掲載され、多くの欧米のメディアがそれを参照して記事にした。本部はイルシー共通のステートメントを即座に発信するとともに、論文に対するコメントをホームページに掲載するなど対応を図った。</p>
総会	<p>平成 31 年通常総会が 2 月 21 日(木)午前 10 時より日本橋公会堂にて開催された。</p> <p><b>審議事項</b></p> <p>第 1 号議案 2018 年度事業活動報告及び決算報告案が承認された。  第 2 号議案 2019 年度事業活動計画及び収支予算案が承認された。  第 3 号議案 役員の報酬に関する定款変更が承認された。</p> <p>3 つの議案について共に質問はなかった。</p> <p><b>報告事項</b></p> <p>本部総会報告  2 月 6 日の第 1 回理事会での報告と同様。</p>
事務局	<p>事務局次長としてキッコーマンから出向された小幡明雄氏が 2 月末で退職。</p>